

広報と危機管理

8月29日（火） 15:15-16:45 会場C（5階）

危機管理広報の観点から、問題が起こらないようにあらかじめ手をまわして調整していくということと、問題が起こってしまった時の、不確定な情報下における事後対応について、両方学べるような内容とする。講師は、かつて国立大学の危機管理広報体制を構築・指揮し、現在はサイバーセキュリティの専門家として活躍する研究者と、国内の名だたる研究機関の広報担当官を十数年にわたり歴任し、自身も緊急時広報対応の最前線に立った経験をもつ両名。危機管理広報において、問題発生時の情報伝達が遅滞なく行われるよう危機管理チームの体制づくりや、内部情報の漏洩や情報の不必要な拡散を防ぐ意味でも、迅速かつ透明性をもって先手で対応することが重要であることを上層部に理解してもらうなど、日頃の学内活動が鍵を握る。また、問題の長期化を避けるための記者会見時における発表の仕方やその内容、不必要なネガティブ報道を避けるためにもジャーナリストとの信頼関係構築など、報道対応についても議論する。この他、所管省庁や地方自治体、地域住民への情報提供において、緊急事態発生時のホットライン構築、ある程度全容が明らかになった時点での公式ホームページにおける情報開示や、問題収束後の住民向け公開説明会についても触れる。危機管理広報に関する幅広い知見を提供するとともに、会場も巻き込んだアクティブラーニングのような参加型のセッションとする。

オーガナイザー／司会者



名取 薫：沖縄科学技術大学院大学（OIST）
メディアセクション セクションリーダー

大学卒業後、テレビ番組制作会社勤務を経て、米国大学院でジャーナリズム修士号取得。帰国後は米国大使館報道室に勤務し、2007年に独法時代のOISTに入る。現在は主にウェブ記事（日英）や報道対応、広報出版物の発行、SNS管理の他、サイエンスコミュニケーションフェロー（年間4名）を育成している。科学技術広報研究会の初代国際広報担当副会長（2014-2016）として、会員機関を束ねて米英の科学イベントに合同ブース出展した。

講演者

**高倉 弘喜** : 国立情報学研究所 アーキテクチャ科学研究系 教授

平成2年九州大学工学部卒、平成4年九州大学大学院工学研究科修士課程修了、平成7年京都大学大学院工学研究科博士後期課程修了、京都大学研究員、イリノイ州立大学客員研究員、奈良先端科学技術大学院大学助手、京都大学講師、助教授(准教授)、名古屋大学教授を経て、平成27年より国立情報学研究所教授。平成28年同所サイバーセキュリティ研究開発センター長。サイバー攻撃対策の研究に従事。

**岡田 小枝子** : 高エネルギー加速器研究機構 J-PARCセンター
広報セクション セクションリーダー

日立製作所の研究所で基礎研究に従事後、フリーランス医療ライターを経て、2003年に移った東京大学理学部広報室で広報担当のキャリアをスタート。2004年に理研に移り、広報誌制作、メディア対応、イベント企画運営など、国内外の種々の広報業務に携わる。2012年に高エネルギー加速器研究機構広報室に移り、主に国内外のメディア対応に従事、2014年より広報室長、2016年よりJ-PARCセンター広報セクションリーダー。科学技術広報研究会会長。